

三、歴代町村長と議長

一、合併迄の歴代町村長
国府村長

代順	氏名	在職期間
一	国眼幾太郎	自明治二二・三・五・一三 至明治二三・三・五・一三
二	長沢実二郎	自明治二七・三・二・五 至明治二七・三・二・五
三	古橋孝之輔	自明治二七・六・一・七 至明治二八・六・一・七
四	間狩宇太郎	自明治二八・五・六・一〇・三 至明治三一・五・六・一〇・三
五	長沢政太郎	自明治三一・五・二・一 至明治三五・六・一・七
六	赤木八左衛門	自明治三五・七・三・一 至明治三五・七・三・一
七	林吉太郎	自明治三五・九・九・一四 至明治三九・九・九・一四
八	赤木八左衛門	自明治三九・九・七・八 至明治四三・九・七・八

九	長沢政太郎	自明治四三・一・一・一 至明治四四・七・三・一
一〇	赤木八左衛門	自明治四四・八・一・一 至大正四・八・一・一
一一	林吉太郎	自大正四・八・三・〇 至大正七・一・八・三・〇
一二	長沢実二郎	自大正七・一・二・一・六 至大正一七・七・三・一・六
一三	小林五左衛門	自大正一七・七・八・五・三 至大正二二・七・八・五・三
一四	小山利雄	自大正二二・二・二・二・六 至昭和二・二・二・二・六
一五	古橋勉	自昭和二・二・二・二・六 至昭和八・四・一・一・二・八
一六	長沢政太郎	自昭和八・四・一・一・二・八 至昭和一五・九・一・一・〇
一七	上坂哲	自昭和一五・九・一・一・〇 至昭和一六・五・三・一・四
一八	古橋勉	自昭和一六・五・三・一・四 至昭和二〇・四・四・一・二

三、歴代町村長と議長

八	七	六	五	四	三	二	一	代順	氏名	在職期間
吉谷清一	長谷川盛	吉谷治郎平	中村鱗造	長谷川弥一郎	今井攄太郎	長谷川弥一郎	中村孫左衛門			
自昭和二三・三・二四 至昭和二三・四・二五	自昭和二一・一・一九 至昭和二一・四・二九	自大正一四・四・二〇 至昭和一一・四・二〇	自大正一四・三・三一 至大正一四・三・三一	自大正一六・三・二六 至大正一六・三・二六	自大正二・二・二七 至大正二・五・一三	自明治四〇・五・一三 至明治四〇・五・一三	自明治三二・三・一一 至明治三二・五・一一			

二〇	一九
長沢昂	小林五左衛門
自昭和二三・三・二四 至昭和二三・四・二二	自昭和二〇・一・三〇 至昭和二一・四・三〇

八代村長

一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	代順	氏名	在職期間
戸田治助	太田寿之助	瀬崎春治郎	森垣利助	友田勘右衛門	西岡耕造	福富庄兵衛	西岡耕造	藤本六右衛門	森垣利助	藤本六右衛門			
自明治四二・一・二八 至明治四二・二・二八	自明治四一・一・三〇 至明治四一・二・三〇	自明治四〇・一・二六 至明治四一・一・二六	自明治三九・五・二六 至明治四〇・五・二六	自明治三九・二・一八 至明治三九・二・一八	自明治三二・七・二七 至明治三二・七・二七	自明治二八・七・二二 至明治二八・七・二二	自明治二五・四・二四 至明治二五・四・二四	自明治二五・五・二六 至明治二五・五・二六	自明治二三・一・一七 至明治二三・四・一七	自明治二二・九・二四 至明治二三・九・二四			

日高町(村)長

第六部 資料

三方村長

代順	氏名	在職期間
一	谷垣久兵衛	自明治二二・一〇・一五 至明治二二・一〇・一五
二	柴垣弥一郎	自明治二二・一〇・二六 至明治二三・一〇・三〇
三	井上真一郎	自明治二三・一〇・三八 至明治二五・三・三〇

一二	太田寿之助	自明治四三・一一・二二 至大正元・一一・一五
一三	藤本俊郎	自大正元・一一・三〇 至大正一一・一・七
一四	友田一郎	自大正一一・二・一八 至昭和三・二・一三
一五	上坂豊治	自昭和八・二・二八 至昭和八・三・〇
一六	太田剛太郎	自昭和一一・一〇・二六 至昭和一二・一一・六一
一七	河本重利	自昭和一二・九・七 至昭和二二・九・七
一八	太田剛太郎	自昭和二二・九・七 至昭和二八・三・二四

四	谷垣権重郎	自明治二五・三・四 至明治二八・一・七
五	多田利太郎	自明治二八・五・一〇 至明治二八・五・一〇
六	谷垣久兵衛	自明治二八・一〇・一 至明治二九・一〇・一
七	内藤五郎	自明治二九・一・一 至明治三三・一・一
八	北村松三郎	自明治三三・一・一 至明治三五・一・一
九	大田綱藏	自明治三五・一・一 至明治三八・一・一
一〇	井上真一郎	自明治三八・一・一 至大正三・一・一
一一	谷岡弥三治	自大正三・一・一 至大正四・一・一
一二	国谷卯之助	自大正四・一・一 至大正六・一・一
一三	谷岡篤	自大正六・一・一 至大正一〇・一・一
一四	多田鶴夫	自大正一〇・一・一 至大正一五・一・一
一五	柴垣博	自大正一五・一・一 至昭和七・五・一
一六	谷岡貞治	自昭和七・五・一 至昭和一一・七・一

三、歴代町村長と議長

清滝村長（明治二十七年十二月十五日西気村より分離）

代順	氏名	在職期間
一	前田 弥左衛門	自明治二八・三・二八 至明治三二・三・三一
二	西 垣 元 七	自明治三二・四・二六 至明治四〇・四・二五
三	前田 孫左衛門	自明治四〇・四・二六 至大正七・二・二六
四	西 垣 元 七	自大正八・一・二九 至大正二二・二・二八
五	前 田 品 藏	自大正二二・四・二九 至大正三三・四・二二
六	山 田 禎 藏	自大正三三・四・二八 至昭和一〇・二・一七

一七	谷 垣 喜 信	自昭和一一・五・二四 至昭和一一・七・一三
一八	北 村 健 一	自昭和一二・七・一五 至昭和二二・三・一〇
一九	成 田 猪 三 雄	自昭和二二・四・一五 至昭和二六・四・四
二〇	小 田 垣 陸 三	自昭和二六・四・二三 至昭和三〇・三・二四

西気村長

代順	氏名	在職期間
一	北 村 初 太 郎	自明治二二・五・七 至明治二五・七・七
二	前 田 弥 左 衛 門	自明治二五・八・二九 至明治二七・二・一五
三	北 村 初 太 郎	自明治二七・二・一五 至明治二八・三・二
四	中 島 久 太 郎	自明治二八・三・二 至明治三二・三・三
五	井 上 三 郎 右 衛 門	自明治三二・三・二五 至明治三六・三・二五
六	中 島 久 太 郎	自明治三六・三・二八 至明治四〇・三・二七

七	岡 本 賢 藏	自昭和一〇・二・二二 至昭和一一・二・二二
八	向 藤 原 貞 一 郎	自昭和一一・二・二二 至昭和一一・二・二二
九	福 嶋 門 之 祐	自昭和一一・二・二二 至昭和一一・二・二二
一〇	奥 田 武 夫	自昭和一一・二・二二 至昭和一一・二・二二

二、合併迄の歴代町村会議長
 国府村会議長

代順	氏名	在職期間
一	古橋勉	自昭和二一・一〇・一七 至昭和二三・三・一九

七	井上庄左衛門	自明治四〇・三・二八 至明治四二・三・三〇
八	中島久太郎	自明治四二・五・一七 至大正一〇・五・一六
九	岡藤治郎兵衛	自大正一〇・六・三一 至大正一四・五・三一
一〇	水口与八郎	自大正一四・八・一三 至昭和四・八・一五
一一	中島久太郎	自昭和四・八・二三 至昭和六・三・一四
一二	岡藤義雄	自昭和六・五・二三 至昭和八・五・二三
一三	中島久太郎	自昭和八・五・三〇 至昭和二二・四・三〇
一四	和多田忠繁	自昭和二二・四・四五 至昭和三〇・三・二四

日高町会議長

代順	氏名	在職期間
一	河本重利	自昭和二一・一一・四 至昭和二三・三・三一
二	川上小一郎	自昭和二三・四・二九 至昭和二三・四・二九

八代村会議長

代順	氏名	在職期間
一	赤松隆	自昭和二三・五・一七 至昭和二五・四・一〇
二	谷原覚造	自昭和二五・四・一一 至昭和二六・四・二二
三	藤本勇三	自昭和二六・五・二四 至昭和三〇・三・二四

二	長沢政太郎	自昭和二三・四・二九 至昭和二三・四・二九
三	小山利雄	自昭和二三・五・一〇 至昭和二六・四・二三
四	武中喜一郎	自昭和二六・五・四 至昭和三〇・三・二四

三、歴代町村長と議長

三方村会議長

代順	氏名	在職期間
一	谷垣喜信	自昭和二一・一〇・三一 至昭和二三・二・一四
二	柴垣博	自昭和二三・二・二八 至昭和二三・四・二九
三	北村健一	自昭和二三・五・二八 至昭和二三・四・二九
四	佐藤正鶴	自昭和二三・五・二二 至昭和二三・三・二四

三	戸田卓治	自昭和二三・五・一八 至昭和二三・七・一四
四	田口健三	自昭和二三・七・一五 至昭和二三・一・一五
五	長瀬富一郎	自昭和二三・一・一五 至昭和二三・四・二二
六	吉谷誠一	自昭和二三・五・二四 至昭和二三・三・二八
七	上坂正雄	自昭和二三・三・二九 至昭和二三・三・三三
八	浅田彦左衛門	自昭和二三・三・二九 至昭和二三・三・二四

清滝村会議長

代順	氏名	在職期間
一	和田久太郎	自昭和二一・一〇・二三 至昭和二三・四・二九
二	田村良一	自昭和二三・五・二九 至昭和二三・四・二九
三	前田喜代一	自昭和二三・五・三三 至昭和二三・三・二四

西気村会議長

代順	氏名	在職期間
一	小田根駒藏	自昭和二三・五・二七 至昭和二三・三・二四

合併後の町長、議長は第二十三章、町村合併と新日高町の誕生（七二〇頁以下）を参照されたい。

第六部 資料

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
思	三	久	須	鷹	八	須	熊	三	日	鹿	伊	氣	御	兵	十	
往	柱	野	谷	貫	坂	賀	野	野	吉	島	智	多	井	主	神	
神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	
○		○	○				○				○	○	○			
		奈	藤	竹	上	西	池	野	府	府	上	土	松	松	所	
中	谷	佐					々	堀	中	市	郷	居	岡	岡	在	
		路	井	貫	石	芝	上	庄	新	場					地	
29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16			
八	粟	岩	石	久	春	白	伊	荒	兵	鹿	日	荒	大	産	産	八
坂	嶋	船	竜	寸	米	山	久		主	島	枝		岡	靈	靈	城
神	神	神	神	兵	主	神	刀	神	神	神	神	神	神	神	神	神
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
			○				○		○							○
久	道	道	久	久	東	赤	赤	浅	浅	岩	宵	江	大	小	河	八
田								倉	倉	中	田	原	岡	江	江	代
谷	場	場	斗	斗	構	崎	崎									爪

四、日高町所在神社一覽

式内社……○

四、日高町所在神社一覽

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30							
川	三	馬	杉	八	佐	愛	諏	岩	秋	日	楯	井	天	八	荒	壳	楯	日	秋	八	高	
灌	柱	止	岡	幡	久	宕	訪	龍	葉	置	縫	田	珂	坂	神	布	石	吉	葉	坂	負	
神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
				○						○	○	○					○					○

栗	栗	觀	森	知	佐	伊	伊	篠	日	日	日	鶴	山	水	国	国	祢	夏	夏	夏	夏	
音																						
山	山	寺	山	見	田	府	府	垣	置	置	高	岡	本	上	寺	寺	布	栗	栗	栗	栗	

64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46

八	国	威	山	神	三	戸	太	荒	北	須	敵	神	三	积	山	清	若	万	八	山	志
幡	主	德		明	柱		刀		山	賀	島	門	柱	山	祇	滝	宮	場	重	祇	伎
神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神	神
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
				○									○								

名	神	枳	山	石	頃	十	庄		荒	荒	猪	広	田	田	羽	羽	羽	羽			
色	鍋	本	宮	井	垣	戸	境		野	野	芝		子	ノ	ノ						殿

67	三	稻	八	三	天
	柱	荷	重	柱	神
	神	神	垣	神	社
	社	社	神	社	社
	山	神	神	神	万
	田	鍋	鍋	鍋	場

1 十二所神社 日高町松岡字宮ノ後二四八

祭神 伊邪那岐神 伊邪那美神 天児屋根命

由緒沿革

創立年月日不詳。江戸時代には若宮大明神と称していたが、享保(一七二二)七年社殿を新築し、明治三年十二所神社と改称した。明治六年十月村社となる。昭和三十六年上覆新築。

境内神社 金刀比羅神社

其他一説には雅成親王妃に関する伝説があり、これに關連する「ばば焼き」祭りがある。

社殿の横に横穴式古墳がある。

境外神社

兵主神社 日高町松岡字家ノ後二七六

祭神 須佐之男命

由緒沿革

創立年月不詳。十二所神社と同一境内にある。

71	70	69	68
松	八	三	三
尾	坂	柱	柱
神	神	神	神
社	社	社	社
東	水	稻	万
河	口	葉	劫
内			

2 御井神社 日高町土居字天神二八八

祭神 御井神 菅原道真

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。近世において天満宮と称したが、明治三年御井神社と改称した。明治六年十月村社となった。

境内神社

荒神社

須賀神社 大正二年五月二十九日、川濯神社を合祀し

た。川濯祭には参詣者が多い。

田中神社 明治四十三年五月十四日現地に移転。

3 氣多神社 日高町上郷字大門二二七

祭神 大己貴命

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。中世以降総社氣

四、日高町所在神社一覧

多大明神と称した。鎌倉時代には、大般若田、三十講田などの社領を有していた。明治三年気多神社に改め、明治六年十月郷社となった。神輿渡御式あり

境内神社 稻荷神社 八坂神社 須賀神社 八幡神社

その他 神社縁起一卷 本殿修管棟札 延宝五年 鏡一面 罅口二個其内一個は応永三十四年作(町指定文化財)

4 伊智神社 日高町府市場字楮根九三五

祭神 神大市姫命

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。これまで八王子

大権現と称していたが、明治二年伊智神社と改称した。

明治六年十月村社となる。神輿渡御式あり

境内神社 日吉神社 須賀神社 芝神社

5 鹿島神社 日高町府中新字受所一五

祭神 武甕槌命

由緒沿革

創立年月不詳。明治十四年二月村社となる。大正四年本

殿を修繕し拜殿を改築した。

境内神社 日吉神社 愛宕神社

6 日吉神社 日高町堀字宮ノ下四一七

祭神 大山咋神

由緒沿革

創立年月不詳。江戸時代には山王権現と称していたが、

明治二年日吉神社と改称した。明治六年十月村社とな

る。

境内神社

八柱神社

須賀神社 堀村字寄藪より、明治三十八年六月十三日現

地に移転。

7 三野神社 日高町野々庄字下小屋七八二

祭神 師木津日子命

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。これまで十二所

権現と称したが、明治三年三野神社と改めた。明治六年

十月村社となる。

境内神社 稻荷神社

8 熊野神社 日高町池上字京白三三三

祭神 伊邪那岐命 伊邪那美命 須佐之男命

由緒沿革

創立年月不詳。これまで熊野三所権現と称したが、明治三年熊野神社と改称した。明治六年十月村社となり、同四十年十月須賀神社を合祀した。

境内神社 荒神社 稻荷神社

9 須賀神社 日高町西芝字南畑一

祭神 須佐之男命

由緒沿革

創立年月不詳。従前三宝荒神といったが明治三年須賀神社と改む

境内神社 愛宕神社 稻荷神社 川濯神社

10 八坂神社 日高町上石字上石畑二

祭神 須佐之男命 櫛稲田姫命

由緒沿革

創立年月不詳。これまで祇園牛頭天王と称したが、明治三年八坂神社と改称した。明治六年十月村社となった。

境内神社 三柱神社

11 鷹貫神社 日高町竹貫字梅谷四二九

祭神 鷹野姫命

由緒沿革

創立年月不詳。祭神鷹野姫命は神功皇后の御生母であるという。延喜式には小社となり、明治六年十月村社となる。

境内神社

八坂神社 日枝神社

12 須谷神社 日高町藤井字イトキレ三〇八

祭神 句々廻智命

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。延享元年（一七四四）九月本殿を再建した。昔は藤井・奈佐路・谷三カ村の産土神であった。

13 九野木神社 日高町奈佐路字イセキ七四四

祭神 加遇槌命

由緒沿革

創立年月不詳。安政三年（一八五六）再建し、昭和三年現在地に遷宮新築した。

14 三柱神社 日高町谷字宮ノ下九二

祭神 澳津彦命 澳津姫命 火結命

由緒沿革

四、日高町所在神社一覽

創立年月不詳。文化十一年（一八一四）社殿を再建し、明治六年十月村社となる。川下神社が合祀されている。七月二十九日川下祭が行われている。昭和五十年屋根を銅板に葺替える。

15 思往神社 日高町中字宮ノ下三二六

祭神 思兼命
由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。昔、赤藤大明神と称していた。文化十四年（一八一七）社殿を再建し、明治三年社名を旧称に復した。明治六年十月村社となった。

境内神社 若宮神社

其他 字大道ノ下にあつた若宮神社を現境内に、大正三年十一月二十八日遷宮した。

16 多麻良木神社 日高町猪爪字玉谷三六七

祭神 彦火々出見命
由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。天明四年（一七八四）本殿を再建し、明治六年十月村社となる。

17 八城神社 日高町八代字稲葉二七二

祭神 須佐之男命
由緒沿革

創立年月不詳。元禄十六年（一七〇三）社殿を再建した。豊岡藩領主の崇敬社で、祭資料を石高で寄進されていたが、享保十一年（一七二六）これを停め、村の物成高の内を以つて賄われた。明治六年十月村社となった。

境内神社 稲荷神社

18 産靈神社 日高町河江字堂ノ後三六八

祭神 天御中主神 高皇産靈神 神皇産靈神
由緒沿革

創立年月不詳。これまで妙見宮と称したが、明治二年産靈神社と改称し、明治六年十月村社となる。

19 産靈神社 日高町小河江字蛇谷口七六

祭神 高皇産靈神 神皇産靈神
由緒沿革

創立年月不詳。元禄年間、河江の村社産靈神社の分霊を勧請したと伝えている。明治六年十月村社となる。

境内神社 稲荷神社

20 大岡神社 日高町大岡寺字小馬ヶ所

祭神 大奈母知命 少彦名命

由緒沿革

創立年月不詳。貞観十年（八六八）従五位下に叙せられた。この神社は、白山神社とともに、大岡寺の守護神であったという。明治六年十月村社となる。昭和五十七年十月現在地に移転し遷宮した。

其他 神社棟札 天明八年（一七八八）

本殿再建棟札 寛政九年（一七九七）

21 荒神社 日高町江原字東幸ノ神二二五

祭神 澳津比古神 澳津比売神 火結神

由緒沿革

創立年月不詳。古代においては荒人神社と称せられたようであるが、宝暦九年（一七五九）の出石封内神社帳によれば荒神社と称している。明治二十二年には荒人神社と改称し、明治六年、村社となる。大正五年本殿等再建新築、再び荒神社と称した。昭和五十三年本殿拜殿屋根（銅板）葺替大修理をした。

境内神社 金刀比羅神社 塞神社 水神神社 稻荷神社
天神社

22 日枝神社 日高町宵田字竹ノ内七〇

祭神 大山咋命 大己貴命 大山祇命

由緒沿革

慶雲二年（七〇五）、進美寺創建のとき、鎮守として同寺山上に白山権現を、山麓に山王権現を勧請したが、この山王権現が当社であるという。明治二年日枝神社と改称した。同六年村社となる。初め岩中宵田両村の氏神であったが、大正元年分れて宵田の氏神となる。大正四年現在地に遷宮し本殿を新築した。

境内神社 稻荷神社 惠比須神社

其他 惠比須神社の祭礼（一月十日）には福引き行事が行われ、近在からの参詣者も多く賑やかである。

23 鹿島神社 日高町岩中字城山一〇九一二

祭神 健御雷之男神

由緒沿革

もと日枝神社の摂社として創立され、中古には毘沙門社と称していたが、明治二年社名を鹿島神社と改称した。翌三年遷宮を行い、大正二年現在地へ遷宮した。

境内神社 稻荷神社 毘沙門天社 金刀比羅大権現社
其他 遷宮棟札（明治三年六月）

四、日高町所在神社一覽

24 兵主神社 日高町浅倉字宮岡

祭神 八千矛神

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。寛永九年(一六三三)本殿を造立し、次いで延宝六年(一六七八)、享保十四年(一七二九)に再建した。文化十二年(一八一五)本殿覆を普請し、明治六年十月村社となる。

境内神社 稻荷神社 水無月神社

其他 水無月神社祭礼(七月三十日)には、神輿が円山川に入る「おたび」及び夕刻に「湯だて」の神事が行われる。水災除け、女の病を癒す神だという。

境外神社

荒神社 日高町浅倉字寺谷

祭神 奥津彦神 奥津姫神 火結神

由緒沿革

不詳

25 伊久刀神社 日高町赤崎字森ノ下四三八

祭神 瀬織津姫神 大直毘神

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。明治六年十月村社となる。境内四百二十二坪、本殿柿葺入母屋造一坪九

合七勺、拜殿七坪三合四勺。

境内神社 稻荷神社 三柱神社

境外神社

白山神社 日高町赤崎字進美

祭神 白山妙理大権現

由緒沿革

創立年月進美寺開創の時進美寺の守護神として祀られたという。明治六年十月村社となる。境内十二坪、本殿は柿葺流造二合四勺、本殿覆一坪三合二勺。昭和二十四年鞆堂改築。

其他 火難除けの神様といわれ、近隣の村々の信仰が厚い。本殿は室町末の遺構をよく残している。

26 春米神社 日高町岩中字東柳五六ノ一

祭神 高皇産靈神 天御中主神 神皇産靈神

由緒沿革

昭和二年、日高町荒川の春米神社を勧請し、社殿を新築した。昭和五十一年屋根葺替えをした。この神社は、鳥取県若桜町春米神社の分霊を荒川へ勧請したものである。東構区の氏神として崇拜される。

27 久刀寸兵主神社 日高町久斗字クルビ四九一

祭神 大國主命 品陀和氣命

由緒沿革

大化三年（六四七）、氣多郡の軍団に兵庫を設け、その鎮守として当社を創立したと伝えている。延喜式には小社となる。中古以来鳴瀧大明神と称していた。安政二年（一八五五）本殿を再建し、明治二年社名を旧称に復した。同四十五年八幡神社を合祀し、本殿を再建し拜殿を改築した。昭和五十七年本殿、拜殿の檜皮葺屋根を銅板に葺替えた。

境内神社 稻荷神社 粟島神社

其他 本殿再建棟札 安政二年（一八五五）二月二十五日

境外神社

石竜神社 日高町久斗字川端

祭神 不詳

由緒沿革

創立年月不詳。稲葉川左岸に巨石が数個あり、その中に石竜（小蛇）が住み、時に姿を見せるが、首尾はなかなか見せないという。雨乞いの神だといわれている。

其他

祭礼（七月第一日曜日）には、子供会相撲や餅まきの行事がある。

28 岩船神社 日高町道場字山田

祭神 高麗神 調書には天磐船長命と記す。

由緒沿革

創立年月不詳。この地方の開拓者である天磐船長命を磐船宮に祀ったという。明治六年十月村社となる。同四十三年社殿が火災に罹り再建した。

境内神社 稻荷神社 天神社

境外神社

粟嶋神社 日高町道場字水クゴ

祭神 少彦名命

由緒沿革

明治三十一年、和歌山加太の淡島神社より勧請した。大阪住吉明神の女房神と考えられており、海上安全と婦人病に効験があると伝えている。昭和初期に改築して今日に至っている。

29 八坂神社 日高町久田谷字上山

祭神 速須佐之男命 奇稻田姫命 五男三女神

由緒沿革

創立年月不詳。天保十三年（一八四二）本殿再建。明治六年十月村社となる。大正五年八柱神社を合祀した。

境内神社 三柱神社 殿島神社（弁天社）

四、日高町所在神社一覽

境外神社 秋葉神社 稻荷神社

其他 本殿再建棟札 天保十三年十一月

30 高負神社 日高町夏栗字秋葉山一六六ノ一

祭神 白山彦之命 白山比売命 菊々理比売命

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。寛文三年（一六六三）加賀より白山神社を勧請し合祀したという。享保の頃本殿を再建した。明治三年遷宮して高負神社と復称した。明治六年村社となり、同八年女人參詣禁止の風習を廃止した。昭和二十四年拜殿、本殿上屋を建築した。

其他 遷宮札 明治三年四月吉日

境外神社

八坂神社 日高町夏栗字八坂山一五三

祭神 須佐之男命 櫛稲田姫命

由緒沿革

享保十八年（一七三三）、京都より勧請したという。牛頭天王と称していた。大正八年内宮の屋根替えをする。昭和二十年外廓を再建した。

境内神社 稻荷神社

秋葉神社 日高町夏栗字秋葉山一六六

祭神 迦具土命

由緒沿革

数十年前、善福寺住職が勧請した。

日吉神社 日高町夏栗字寺口二八五

祭神 大山咋命

由緒沿革

享保十八年（一七三三）近江国より勧請した。昭和五十年上屋の屋根替えと社殿の新築をした。

境内神社 荒神社

31 楯石神社 日高町祢布字城山四四六

祭神 武甕槌命 経津主命 武御名方命

由緒沿革

創立年月不詳。鎮座地に高さ一丈周圍一丈三尺余の巨石があり、その社名となったという。明和七年（一七七〇）及び安政六年（一八五九）に本殿を建築している。さらに弘化二年（一八四五）本殿を建築し、十二所権現、若王子権現を合祀し、改めて楯石神社と称した。明治六年十月村社となり、同三十年本殿の屋根替えを行う。

境内神社 稻荷神社 八坂社 八代社 三柱社

32 売布神社 日高町国分寺字山ノ脇七九七

祭神 不詳。調書には大売布命と記す。

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。往古は祢布ヶ森にあつたが、宇天神に遷宮した。その後、大雨のため境内損し、文久二年（一八六二）現在地に遷宮した。万延元年（一八六〇）本殿を再建し、明治六年十月村社となる。大正十年本殿の屋根替えをした。

境内神社 稻荷神社 三柱神社

其他 元は石立村の神社であつた。

33 荒神社 日高町国分寺字谷口六九一

祭神 火結神 澳津比古命 澳津比売命

由緒沿革

創立年月不詳。鎌倉時代法勝寺末寺領となつて仏神田二町三反を修理田としていた。江戸時代には、国分寺の鎮守として荒神、八幡、稻荷の三社があつたが、この荒神社が当社であるという。文政十年（一八二七）本殿を再建し、明治維新の際、国分寺境内より今の地に遷宮した。明治六年村社となり、大正三年本殿を再建した。

34 八坂神社 日高町水上字小弥田三七二

祭神 速須佐之男命 寄稻田姫命

由緒沿革

創立年月不詳。牛頭天王と称していた。寛文年間小出楯殿は幣物を捧げた。寛政七年（一七九五）本殿を再建。

文化六年（一八〇九）の火災により古記録を焼失した。安政五年（一八五八）領主の長男小出辰太郎額一面を奉納。明治六年十月村社となる。同三十七年本殿を上棟。大正七年向拝を新築。同十四年本殿を造営した。

境内神社 須賀神社 稻荷神社

35 天珂森神社 日高町山本字堂奥二六九

祭神 不詳。調書には大山祇命と記す。

由緒沿革

天平十三年（七四一）開基された但馬国分尼寺附近に鎮座され、尼ヶ森神社と称した。天正年間兵火にかかり焼失したと伝えている。その後、社殿を再建し小出氏代々の崇敬深く田地の寄進を受けた。安政五年（一八五八）社殿を建替え、翌安政六年（一八五九）本殿覆を建替えた。明治六年十月村社となり、同三十二年今の地に遷宮した。

境内神社 恵比須大黒天社 稻荷神社 荒神社 多聞天社

36 井田神社 日高町鶴岡字城山一二二

祭神 稻倉魂命 誉田別命 氣長足姫命

四、日高町所在神社一覽

由緒沿革

創立年月不詳。嘉祥元年（八四八）悪疫流行の際に、山城国石清水八幡宮より二柱を勧請したと伝えている。延喜式には小社となる。延宝元年（一六七三）宮田一反七畝余は除地となり、小物成を以って祭礼費とした。豊岡藩主より御供米、幣紙を奉獻された。宝永二年（一七〇五）本殿造立。明治三年神霊を改めて勧請し、明治六年十月村社となる。同四十年拜殿を増築した。年毎に神輿渡御式あり。

境内神社 稻荷神社 水神社

其他 木像四天王立像（日高町指定文化財）但馬国分尼寺のものといはれる。

37 榑縫神社 日高町鶴岡字保木六七六ノ一

祭神 彦狭知命

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。中古には春日社と称し鎌倉時代には神領四町九反六十歩を有していた。明治六年十月村社となり、同三十二年本殿を再建し、同三十五年本殿覆を再建した。昭和二十二年十月現在地に遷宮し、同四十年本殿を新築した。

境内神社 稻荷大明神

其他 祭礼には師子舞神事がある。榑縫古墳の出土品を所蔵する。

38 日置神社 日高町日置字谷一四

祭神 天櫛耳命

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。中古には卷尾大明神あるいは梶尾宮と称したという。明治三年日置神社に復称した。明治六年十月村社となる。同四十年社殿改築、拜殿を新築した。大正十一年社務所兼神庫を新築した。神輿渡御式あり。

境内神社 三柱神社 稻荷神社

境外神社

秋葉神社 日高町日置字姫路三〇〇

祭神 迦具土命

由緒沿革 不詳。

其他 祭礼日には子供相撲があり近在からの参詣者が多い。

39 岩龍神社 日高町篠垣字宮ノ上一一六

祭神 大綿積命

由緒沿革

創立年月不詳。宝曆十三年（一七六三）九月一日本殿を上棟。文化十四年（一八一七）八月本殿を建立し、遷宮を行う。明治六年十月、村社となる。大正四年靈代を奉造した。

境内神社 五社神社

其他 靈代奉造札 大正四年十月

40 諏訪神社 日高町伊府字御所山二六

祭神 建御名方神

由緒沿革

創立年月不詳。元禄元年（一六八八）社殿を再興し、同七年（一六九四）これを改造した。明治六年十月村社となり、同十四年本殿を再建した。

境内神社 稻荷神社 若宮神社

其他 本殿棟札 元禄元年・同七年

本殿再建棟札 明治十四年十一月十二日

境外神社

愛宕神社 日高町伊府字御所山二六

祭神 軻遇突智命

由緒沿革

宝曆十一年（一七六一）九月二十四日勸請。祭日には近在から多数の参詣者がある。昭和五十一年石大鳥居

を建立した。

41 佐久神社

祭神 手力男命 息長帯比売命 品陀和氣命 山祇命 澳

津彦命

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。築前庄五カ村の開拓神と伝えられている。寛政十一年（一七九九）大川明神を合祀。天保十三年（一八四二）本殿を再建し大川明神と称したが、明治三年佐久神社と復称した。明治四十一年山祇社・八幡社・荒神社・須賀社を合祀した。同四十三年幣殿拜殿新築。昭和四年本殿屋根替を行う。

境内神社 稻荷神社

42 八幡神社 日高町知見字宮ノ谷一〇四二

祭神 菅田別命

由緒沿革

創立年月不詳。知見字古屋敷より今の地に遷宮した。天保十四年（一八四三）社殿を再建した。明治三年四月六日遷宮を行う。同六年十月村社となる。同三十六年屋根の修繕を行う。昭和四十八年本殿屋根銅板葺替。
境内神社 若宮神社 秋葉神社

四、日高町所在神社一覽

43 杉岡神社 日高町森山字東三九

祭神 息長帯姫命 品陀和氣命 久々能知神 三柱神

由緒沿革

創立年月不詳。明治三年四月遷宮を行い、同六年十月村社となる。同十五年八幡神社に松岡神社と三柱神社を合祀して杉岡神社と称した。

境内神社 稻荷神社 天神社

44 馬止神社 日高町観音寺字奥郷七〇〇

祭神 名草彦命 市杵島命 速須佐之男命 奇稻田姫命

由緒沿革

創立年月不詳。明治六年十月村社となる。同十九年十二月六日今の地に遷宮し社殿を再建。同二十年十月一日八坂神社及び味喰谷の殿島神社を合祀し、社殿兼拜殿を移転改築した。大正五年本殿新築。

境内神社 若宮神社 三柱神社 金刀比羅神社三社合祀。

秋葉神社・山の神の二社合祀し昭和四十三年新築。稻荷

神社

45 三柱神社 日高町栗山字近江谷九二八

祭神 奥津彦命 奥津姫命 火結神

由緒沿革

創立年月不詳。天正二年（一五七四）前和州太守但馬田

路城主落城の折栗山村に移転し、城主より神饌料として田地の寄進を受けた。天明二年（一七八二）本殿を造営し、明治六年十月村社となる。昭和三年改築した。

境内神社 稻荷神社

境外神社

川瀬神社 日高町栗山字内籠四二九

祭神 不詳

由緒沿革

創立年月不詳。阿瀬川橋の西畔にあり、其の祭日（旧六月二十八日）には、露店・見世物が多く集り、近江から参詣者が雑沓し、この地方での大祭であった。川瀬神社は婦人の病に効験があると伝えられている（三方村誌稿本・大正元年）。

境内神社 庚申堂

其他 祭礼（七月二十八日）には、近在から参詣者が多く、当夜は盆踊りで賑わう。

46 志伎神社 日高町殿字大谷四一〇

祭神 誉田別命 志伎山祇命 速素盞鳴命

由緒沿革

創立年月不詳。明和四年（一七六七）本殿を造立し、文

化四年（一八〇七）同殿を修繕した。明治三年六月二十四日遷宮を行い、同六年十月村社となる。大正二年大雪のため本殿覆倒壊し、同六年また雪害のため社殿倒壊し改築した。

境内神社 稻荷神社

47 山祇神社 日高町羽尻字連鉄二七四ノ一

祭神 大山祇命

由緒沿革

創立年月不詳。天正年間金山の発掘が盛んなときに勧請したと伝え、慶長年中生野代官支配となる。このとき村内字寺谷奥檜積より迎山に遷座した。宝暦三年（一七五三）九月及び文化九年（一八一二）十月の両度に本殿を再興した。明治六年村社となる。

48 八重垣神社 日高町羽尻字上広瀬六九一

祭神 須佐之男命 奇稲田姫命

由緒沿革

創立年月不詳

49 万場神社 日高町羽尻字川畑五四九

祭神 速須佐之男命

由緒沿革

創立年月不詳。安政五年（一八五八）正月、社殿を新築し、明治三十三年九月、社殿を改築した。本殿柿葺春日造一坪、本殿覆九坪。

50 若宮神社 日高町羽尻字上ノ山

由緒沿革

創立年月不詳。宝暦二年（一七五二）字滝谷に遷宮を行い、明治三年五月社殿を改築し、明治六年十月本殿を再建した。羽尻字滝谷の鏡座地は、村下にあることを忌み、大正八年三月十五日、字上ノ山に移転した。

其他

遷宮札 明治三年

51 清滝神社 日高町田ノ口字森ノ下七五五

祭神 伊邪那伎命

由緒沿革

創立年月不詳。元禄二年（一六八九）社殿を再建し、明治六年十月村社となる。明治十四年、社殿を改築したが同二十一年四月十五日、部落の大火に類焼し、翌二十二年これを再興した。昭和六年本殿の屋根替え（銅板葺）を行う。

四、日高町所在神社一覽

境内神社 稻荷大神 八柱大神 山祇大神 胞衣大神 清

所大神 石竜大神

境外神社

山祇神社 日高町田ノ口字宮ノ谷一三二

祭神 大山祇命

由緒沿革

創立年月不詳。

境内神社 稻荷神社 須賀神社

52 釈山神社 日高町広井字尺山四七一

祭神 速須佐之男命

由緒沿革

創立年月不詳。文政四年（一八二二）九月、社殿を再建し、嘉永三年（一八五〇）靈代を再造した。明治六年十月村社となる。本殿柿葺春日造、本殿覆六坪二合七勺。昭和三十八年鳥居建設昭和四十五年屋根葺替え。

境内神社 稻荷神社 荒神社

53 三柱神社 日高町猪子垣字堂ノ前七一

祭神 奥津彦命 奥津姫命 事代主命

由緒沿革

創立年月不詳。明治二十一年、字家ノ上にあつた西宮神

社を勧請し新築し合祀した。昭和八年鳥居建設。

（慶長三年西宮神社分身）

境外神社

吉野神社 日高町猪子垣字奥長峰四四八

祭神 天水分命 国水分命

由緒沿革

創立年月不詳。隣村芝と共に祭る。

54 神門神社 日高町荒川村字村ノ上三〇九

祭神 大国主命 武夷鳥命 大山咋命

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式には小社となる。天和四年（一六八四）本殿を再営した。天保三年（一八三二）本殿を修理明治三年山王大権現の呼称を神門神社と改称した。同六年十月村社となり、同三十三年瓦葺に屋根替えをした。昭和五十一年随神門を新築した。

境外神社

厳島神社 日高町荒川字村ノ内

祭神 市杵島姫命

由緒沿革

創立年月不詳。宝永の頃建立した。池の中の小島上に鎮座している。池には絶えず清冽な泉水が多量に湧出

して、荒川清水の水源となっている。

55 須賀神社 日高町芝字宮ノ本

祭神 須佐之男命

由緒沿革

創立年月不詳。字野口の須賀森に鎮座している。

56 北山神社 日高町野字引坂二五

祭神 名草彦命

由緒沿革

創立年月不詳。中古には妙見宮と称していた。天保九年

(一八三八)遷宮を行い、嘉永三年(一八五〇)靈代を

再興し、明治三年北山神社と改称した。明治六年十月村

社となる。大正七年、本殿覆を改修し、拜殿を新築し

た。

境外神社

荒神社 日高町野字宮ノ越

祭神 石凝姥命 奥津彦命 奥津姫命 火結神 大國主

命

由緒沿革

創立年月不詳。安政四年(一八五七)六月朔日再建。

明治二十一年九月八日、宇太平に鎮座していた大比叡

神社及び堂後に鎮座していた三柱神社を合祀した。現在
は荒神社と称している。

57 太刀宮神社 日高町庄境字ハブ

祭神 釵太刀日嗣御神

由緒沿革

創立年月不詳。弘化二年(一八四五)神靈を勧請し遷宮

を行い、明治六年十月村社となる。明治二十年三月十六

日遷宮を行う。古老の聞きによれば、祭神国領之太刀

釵が昔盗難にあい、久美浜の入口に光り輝くを、漁網を

もって引きあげ、久美浜太刀宮に祀るといふ。

境内神社 稻荷神社 秋葉神社

其他

神靈観請札 弘化二年(一八四五)九月吉祥日

58 戸神社 日高町十戸字野一八ノ四

祭神 大戸比売命 奥津彦命 品陀和氣命

由緒沿革

創立年月不詳。承和九年(八四二)官社となり、貞観十

年(八六八)從五位上に進叙された。延喜式には名神大

社となり、鎌倉時代には神田四町九反百歩を有してい

た。宝暦九年(一七五九)本殿を再建し、文化七年(一

四、日高町所在神社一覧

八一〇 同殿を造営した。明治六年村社となり、同四十二年三柱・八幡両神社を合祀した。大正二年幣殿拜殿を新築した。昭和四十一年本殿覆再建、昭和四十六年神門兼參籠所再建、昭和五十年拜殿屋根銅板葺替。

境内神社 名草神社、稻荷神社

境外神社

巖島神社

祭神 市杵島姫命

由緒沿革 不詳

其他 本殿再建棟札 宝曆九年(一七五九) 文化七年(一八一〇)

八一〇

59 三柱神社 日高町頃垣字宮ノ前五九二

祭神 奥津彦命 奥津姫命 火結命

由緒沿革

創立年月不詳。これまで三宝荒神社と称していたが、明治三年三柱神社と改称した。明治六年十月村社となり、明治二十年本殿覆を再建した。

境内神社 稻荷神社

其他

本殿再建棟札 明治二十年

60 神明神社 日高町石井字宮後二四六

祭神 天照大御神 市杵島命 劍太刀日嗣御神

由緒沿革

創立年月不詳。寛文五年(一六六五)、延宝二年(一六七四)、文政二年(一八一九)に本殿を造立した。寛文頃には玉之森大明神と称していた。明治六年十月村社となり、明治四十一年巖島神社、太刀宮神社を合祀した。

其他 御神体奉造札 明治十九年

境外神社

巖島神社(弁天社) 石井字弁財天三三六ノ一

祭神 市杵島姫命

61 山神社 日高町山宮字前田四〇九

祭神 句々廻馳命 大山祇命 埴山姫命 稻倉魂命 保倉

魂命、奥津彦命 奥津姫命 火結命 櫛稲田姫命 品陀

和気命 速素盞鳴命

由緒沿革

創立年月不詳。延喜式神名帳には名神大社となり、貞觀十年(八六八)從五位上を授けられた。宝永三年(一七〇六)本殿を再建し、明治六年村社となる。明治二十七年本殿を再建、同四十一年三柱・八幡・八坂の三社を合祀した。神輿渡御式あり。

境内神社 稻荷神社

其他 北山聖岩を祀り祈雨祭をしたと伝えている。

62 威徳神社 日高町枋本字宮脇三〇一

祭神 倭建命 稻倉魂命 須佐之男命 奥津彦命 奥津姫命 火結命

由緒沿革

創立年月不詳。文政四年(一八二一)本殿再建、安政二年(一八五五)本殿再建。明治六年村社となる。明治十八年遷宮、同四十二年稻荷神社・三柱神社を合祀し、昭和七年本殿覆の屋根替えをした。

63 国主神社 日高町神鍋(太田)字宮ノ前

祭神 大国主命 不詳(一宮) 不詳(小野) 祓戸 四柱神

由緒沿革

創立年月不詳。これまで国皇明神と称していたが、明治三年国主神社に改称し、正遷座祭を行った。明治六年十月村社となる。明治四十二年一宮・川濯・小野の三神社を合祀した。神輿渡御式がある。

境内神社 三柱神社 稻荷神社

其他

国主大明神棟札 安永四年(一七七五)

64 八幡神社 日高町名色字寺屋敷九七

祭神 奥津彦命 奥津姫命 火結命 息長帯比売命 品陀和気命

由緒沿革

創立年月不詳。八幡神社は元、稲葉川対岸の男山(現スキ―場)にあったが、明治四十二年現在地の三柱神社に合祀し、社名を八幡神社と称し村社となる。同四十四年本殿覆及び拜殿を新築した。神輿渡御式あり。

65 天神社 日高町万場字上畑四八〇

祭神 菅原道真

由緒沿革

創立年月不詳。これまで天満宮ともめ場大明神とも称していた。文化年中火災に罹り其後再興した。明治三年天神社と改称し、明治六年村社となった。大正四年本殿覆を修築し、同九年拜殿を新築した。昭和五年拜殿の屋根替えを行った。

境内神社 愛宕神社 稻荷神社 五社神社

其他

本殿再建棟札 明治十三年

66 三柱神社 日高町神鍋字西山

四、日高町所在神社一覧

祭神 奥津彦命 奥津姫命 火結命

由緒沿革

創立年月不詳。古来より三宝荒神と称したが、明治三年社殿を再興して遷宮し、三柱神社に改称した。明治六年村社となる。

境内神社 愛宕神社 稻荷神社

其他

境外神社

八重垣神社 日高町神鍋字長者ヶ森八五一

祭神 速素盞鳴命

由緒沿革

創立年月不詳。明治二年九月久美浜県へ届出。境内六

十二坪

住吉神社 日高町神鍋字西山七四一

祭神 三筒男命

由緒沿革

創立年月不詳。明治二年九月久美浜県へ届出。境内十一坪。昭和五十六年九月、三柱神社境内に移転遷座、元は神鍋字西ノ宮に鎮座していた。

稻荷神社 日高町神鍋字シワガノ六一ノ一

祭神 稻倉魂命

由緒沿革

創立年月不詳。

67 三柱神社 日高町山田字奥中五五九

祭神 奥津彦命 奥津姫命 火結命 稻倉魂命

由緒沿革

創立年月不詳。三宝荒神と称していた。寛永三年（一六二六）社殿を改築し、享保十二年（一七二七）本殿を重建、天保十二年（一八四一）同殿を再建した。山田にはこの他、吉野神社・長ヶ森神社・岡神社・君主神社・八王神社があったが合祀されたようである。明治三年三柱神社と改称し本殿遷座祭を行った。同十六年本殿を再建した。昭和二十八年社殿屋根銅板葺替、神輿渡御式あり。

境内神社 稻荷神社 吉野神社

68 三柱神社 日高町万劫字谷奥六七

祭神 奥津彦命 奥津姫命 火結命 祓戸四柱神

由緒沿革

創立年月不詳。文久二年（一八六二）本殿を造営し、三宝荒神と称した。明治三年三柱神社と改称、明治四十二年、川瀬神社を合祀し、社殿を増築した。昭和二十年村

内大火で本殿を類焼し、同二十二年再建した。
其他

合祀川濯神社棟札 嘉永六年（一八五三）
本殿造管棟札 文久二年（一八六二）
社殿改築川濯神社合祀棟札 明治四十二年

69 三柱神社 日高町稻葉字岡七三

祭神 澳津彦命 澳津姫命 火結命 速須佐之男命 奇稻
田姫命
由緒沿革
創立年月不詳。はじめはスリザコ大明神・岩谷大明神、
三宝大荒神があつたが、このうち三宝大荒神は文化六年
（一八〇九）再建、明治五年改築、二社は合祀された、
明治六年三柱神社と改称され、明治六年村社となる。明
治二年八坂神社を勧請した。

境内神社 八坂神社

70 八坂神社 日高町水口字大岩ヶ谷五五

祭神 速須佐之男命 奇稻田姫命
由緒沿革
祇園牛頭天王と称し享保八年（一七二三）本殿を建立し
た。文政十三年（一八三〇）再建。明治三年八坂神社と

改称し、明治六年村社となり、明治二十八年社殿を再建
した。明治四十年社殿及び社地を修築した。
其他
本殿再建棟札 享保八年（一七二三）九月吉日

71 松尾神社 日高町東河内字登坂

祭神 大山咋命 奥津彦命 奥津姫命 火結命
由緒沿革
創立年月不詳。元禄三年（一六九〇）本殿再建、寛政十
二年（一八〇〇）石灯籠・石段奉納、文政三年（一八二
〇）本殿再、嘉永三年（一八五〇）鳥居再建。明治六年
村社となる。同十五年拜殿を造立し、同二十七年三柱神
社・愛宕神社・妙見宮を合祀し、鳥居を再建した。
境内神社 稻荷神社 秋葉神社

註

日高町所在神社一覧は神社史によるが、明治以降の神社
制度を見ると、明治四年に社格に関する制度ができ同五年
神祇省で調査、同六年教部省で決定された。これによる
と、全国の神社を官社と諸社に分け、諸社には、県社、郷

四、日高町所在神社一覧

社、村社、無格社とし、郷社は一戸籍区に一社、村社は各村落一神社を原則として他を無格社とした。

昭和二十一年、神社関係の諸法令が廃止されるにともない社格も廃止された。同時に宗教法人となった。更に昭和二十六年四月宗教法人法の発布にともない、新法人の設立を行って現在に至っている。本一覧表中番号を付しているものは宗教法人として登録されているもので、他はその境内又は境外に祭られる神社として扱われている。

又延喜式（延喜五年着手、延長五年完成）とは、朝廷年中の儀式、百官、臨時の作法、諸国の恒例などを記録した書で五〇巻あり、その第一から第十巻は神祇に関するもので、九、十巻は神名帳であり、これに登載されている神社を式内社と言ひ、大社、小社に分けられている。〇印を下欄に付しておいた。

又慶応四年神仏判然令（神仏混淆禁止令）が出て、維新政府により習合寺社の分離により神社名が変更されていることについて、第七章第三節、神仏分離と排仏毀釈の項、表21習合寺社名称変更一覧表を参照されたい。

第六部 資料

五、日高町所在寺院一覽

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
妙光寺	法華寺	国分寺	善福寺	普門寺	進美寺	本行寺	蓮生寺	觀音寺	立光寺	松月寺	長樂寺	西光寺	智文寺	善応寺	頼光寺	長見寺		寺名
日蓮宗	曹洞宗	浄土宗	真言宗	曹洞宗	天台宗	浄土真宗	浄土宗	真言宗	日蓮宗	浄土真宗	曹洞宗	真言宗	浄土真宗	曹洞宗	曹洞宗	曹洞宗		宗派
鶴岡	山本	国分寺	夏栗	久谷	赤崎	宵田	宵田	江原	江原	八代	上中	上堀	府市	府市	上郷	土居		所在地

町内宗教団体一覽	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
	大円寺	大岡寺	比曾寺	浄土寺	地藏寺	隆国寺	真光寺	玄養院	大溪寺	常楽寺	妙福寺	觀音寺	明禪寺	蓮台寺	常光寺	長寿寺	三昧院	極楽寺
	臨濟宗	真言宗	真言宗	浄土宗	曹洞宗	曹洞宗	浄土真宗	真言宗	曹洞宗	曹洞宗	日蓮宗	天台宗	曹洞宗	真言宗	曹洞宗	曹洞宗	浄土真宗	浄土真宗
	神山	頃宮	頃芝野		荒野	荒殿	栗山	栗山	栗山	觀音寺	觀音寺	森山	知見	佐田	篠垣	日置	日高	

五、日高町所在寺院一覧

1 観音山 長見寺 日高町土居四二四

宗派 曹洞宗

本尊 観世音菩薩

開基年月日 貞享三年（一六八六）十二月十四日

縁起と寺歴

縁起によれば、大同年中天台宗の招提で、観世音菩薩の尊像を安置した。この尊像は春日の神の作であると伝えられている。その後大永年中火災にかかり寺門は焦土となった。寛文年中上田九左衛門の開基により、養源寺二世南洲存補大和尚が開山した。宝永五年（一七〇八）三月六日、またまた火災にかかり灰燼となり、上田元全居士再び梵刹を建立し現在に至る。

檀家数 五六戸

其他 古鏡二面（佐藤次信愛用）、長見寺記（四世慧勤和尚）、正法眼蔵書本がある。未生流二代上田広甫の戒名、

墓石、碑があり、毎年七月法要を営む。

2 玉龍山 頼光寺 日高町上郷五八〇

宗派 曹洞宗

本尊 勢至観世音菩薩

開基年月日 元和元年（一六一五）

縁起と寺歴

但馬守源頼光の徳を慕って廟を建てたといひ、また頼光が補陀大士（観世音菩薩）を安置したことにより、頼光が開基したとも伝えられているが、現在の頼光寺の寺歴からみると、元和元年（一六一五）赤木理右衛門開基、養源寺三世環室珠連大和尚開山として創建された。享保三年（一七一八）本堂伽藍を再建、寛保元年（一七四一）庫裡土蔵を建立、寛政六年（一七九四）観音堂建立、明治維新前に総門を建立した。明治二十六年本堂及び庫裡の屋根替、鐘樓堂再建、開山堂新築、楓樹植込みをした。

檀家数 一六五戸

其他 楓樹多く紅葉寺として知られている。

3 田心山 善応寺 日高町府市場三八七

宗派 曹洞宗

本尊 聖観世音菩薩

開基年月日 不詳

縁起と寺歴

豊岡養源寺の末寺で、本尊として聖観世音菩薩の木像を安置している。天正十六年（一五八八）府市場村上村忠左衛門が開創したと伝えられている。しかし、永禄二年（一五五九）明智光成（光秀）が水生城を攻めたとき、善応寺野に陣をとった（但馬一覽集）というから、この時す

でに善応寺が在ったのではないかと推定されるが審らかでない。延宝二年（一六七四）開山和尚は村内信者の協力により鎮守兼経堂を建立した。宝暦十二年（一七六二）琳山和尚寺院の再建を完成し、安永五年（一七七六）俊龍和尚の時法地格として認可され初祖となる。天保十二年（一八四一）には、良道敬記により金毘羅堂を建立したが、大正十四年（一九二五）北但震災のため倒壊した。明治十一年（一八七八）庫裡を改築し、位牌堂を新築した。

其他

山門は建築年代不詳であるが出雲様式で特徴あり、現在一六世住職となっている。

4 智文寺 ちぶんじ 日高町府市場

宗派 曹洞宗

本尊 聖観世音菩薩

開基年月日 安政五年（一八五八）

縁起と寺歴

出石見性寺十四世靈鳳智文大和尚が安政五年（一八五八）隠居するため自ら出生地に土地を求めて一庵を建立し天庵と名づけた。その後、開山和尚の名をとって智文寺に改めた。文久三年（一八六三）石の大地蔵尊を安置し

た。開山没後は尼庵となる。

信徒数 一五戸

其他

付近より出土した釈迦三尊がある。

5 通有山 西光寺 つうゆうざん さいこうじ 日高町堀四四〇

宗派 浄土真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

開基年月日 寛文年間（一六六一—一六七二）

縁起と寺歴

出石福成寺の末寺創立録（明治三年）によれば、寛文年中、六郎右衛門と申す者、宗門と称し堀道場を開き、享保十二年（一七二七）西光寺と改称した。明和二年（一七六五）本堂建立、明治三十四年本堂再建、昭和四十八年梵鐘を再鑄した。

檀家数 三〇戸

其他

正徳四年（一七一四）六字名号 木函所蔵

明和二年本堂建立棟札所蔵。

6 水生山 長楽寺 みづうみ ちやうらくじ 日高町上石六六四

宗派 高野山真言宗

五、日高町所在寺院一覽

本尊 葉師如来

開基年月日 和銅六年(七一一)

縁起と寺歴

和銅六年(七一一)、行基菩薩の開創になり、行基自ら彫刻した葉師如来を本尊としている。その後、真如法親王山陰巡錫の砌り真言の道場とした。十二坊舎からなり結構壯麗であったが、天正年間秀吉来攻し、水生城陥落とともに伽藍全焼し上石の部落に移る。正徳年間現在地に還り一字を建立し、享保五年(一七二〇)庫裡再建、寛延二年(一七四九)鐘樓再建、寛政三年(一七九二)本堂(葉師堂)を落慶した。大正八年客殿建立、昭和十六年古鐘を供出、昭和二十九年梵鐘を再鑄し、同五十二年本堂(葉師堂)の大修理を完成した。

檀家数 一七二戸

其他

毘沙門天、十一面觀世音菩薩(奈良時代の木像)

湯茶釜 天正五年(一五七七) 与治郎作(日高町指定文化財)

化財)

葉師堂 寛政三年(一七九二)再建(日高町指定文化財)

両界曼荼羅凶室町初期

弘法大師御影 鎌倉末期

散り椿(県指定文化財)

梵鐘 昭和二十九年、東京芸大教授内藤春治作

7 松月寺 日高町中一四二

宗派 曹洞宗

本尊 地藏菩薩

縁起その他

開創年月 不詳

8 玉谷山 光顯寺 日高町八代一〇二九

宗派 浄土真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

開基年月日 文明十二年(一四八〇) 十二月二十八日

縁起と寺歴

弘法大師(空海)の創建と伝え、はじめは猪爪字玉谷に在り、真言宗高野山南院に属していた。玉羅岐神社は当寺の守護神であったと伝えている。南朝延(後醍醐帝)血縁の人、入寺得道出家し釈教信として本住中、文明十二年(一四八〇)本願寺八世蓮如上人の教尊により真宗に改宗し、浄土真宗興正寺派に属したが、次いで本願寺派に帰したという。永正十一年(一五二四)八代へ移転、享保年間本堂庫裡等焼亡した。文化十三年(一八一六)現在地に本堂を再建し、庫裡鐘樓門を整えた。明治

初年には、但馬真宗五山の一つとなり真宗教団の重鎮として隆盛を極めた。昭和五十四年本堂屋根葺替え。

檀家数 二一七戸

其他

親鸞上人木像 菊花香炉

シヤ水観音像(明治中期)

9 栄昌山 立光寺 日高町江原二八

宗派 日蓮宗

本尊 久遠実成本師釈迦牟尼仏

開基年月日 慶長年間(一五九六—一六一四)

縁起と寺歴

慶長年間、宵田城主垣屋光成公法華経に帰依し、出石本高寺十世法性院日忍上人を迎え、領内江原の地に栄昌庵を開基した。さらに伊福の郷土河本六郎右衛門重行檀名となり、慶長十一年(一六〇六)栄昌山立光寺と公称し、京都本山立本寺の末寺となる。正徳二年(一七一一)永代聖人跡紫金蘭を許可された。延享三年(一七四六)惠光院日領上人の代に本堂を再建し、十二代妙心院日照上人の代に楼門を新築した。明治初年住全院日隆上人代金色社祭祀、明治二十九年本堂屋根替、大正八年庫裡改築、昭和六年梵鐘再鑄、同二十四年梵鐘再々鑄、同四十

八年位牌堂新築。同五十五年宗祖七百遠忌記念事業栄昌会館を新築。

檀家数 一四〇戸

其他

亨師開眼一塔両尊木像・宗祖木像・妙見菩薩像・鬼子母十羅刹女像・忍師筆大曼荼羅本尊など日蓮宗宗宝に指定。毎年七月二十三日清正公祭を奉修。これは天保年間に二十世日隆上人の代にはじまり、寺の祭祀に江原村が合流し江原の夏祭りとして親しまれ、戦後の頃より日高の夏祭りとなり賑やかである。

10 観音寺 日高町江原一三三ノ八

宗派 真言宗

本尊 千手観音薩

縁起その他

弘法大師を宗祖とし高野山真言宗の教義を広める、その他不詳。

11 熊谷山大如院 蓮生寺 日高町宵田一〇

宗派 浄土宗

本尊 阿弥陀仏

開基年月日 建久六年(一一九五)

縁起と寺歴

進美寺を根本中堂にして比叡の四谷になぞられ、その一つとして池中山大如院が建立されたのがはじまりである。建久六年(一一九五)丹後国久美浜の本願寺に於て後白河法皇の追善大法要が営まれたとき、御導師は法然上人で伴人の中に蓮生法師がいた。但州氣多郡住民は法然上人の御来光教化を願ったが、代りに蓮生法師が御来但になり、池中山大如院を宿舍とし、二カ月余にわたり念仏道場とした。特に二十一日間の別時會仏会は群衆堂外にあふれたという。蓮生法師は笈仏、手蓮竿、自作木像等を残して帰洛したが、住民はその徳を慕い、大如院を改造して熊谷山大如院蓮生寺と称し、開基を熊谷蓮生法師とした。以来毎年十月三―四日を開山忌とし、「くまがいまつり」を行っている。宝暦二年(一七五二)庫裡再建、宝暦四年本堂再建、文化十一年(一八一四)山門鐘樓再建。

檀家数 三一九戸

其他

阿弥陀二十五菩薩来迎図 室町初期作
国分寺文書―建武五年(一三三八)資料編登載

12

巻尾山 本行寺 日高町宵田一一七

宗派 浄土真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

開基年月日 江戸中期

縁起と寺歴

江戸時代に本行寺道場として建立されていたが、明治初年の宵田の大火により全焼し、明治五年再建された。

檀家数 六戸

其他 半鐘―宝暦五年

13 日高山 進美寺 日高町赤崎一一五〇

宗派 天台宗

本尊 聖観世音菩薩

開基年月日 慶雲二年(七〇五)

縁起と寺歴

進美寺縁起によれば、慶雲二年(七〇五)行基が諸国を巡錫の途、この地に來たり一夜山上の樹下に三昧を凝したが、未明に至って安睡の中に観音菩薩像が出現して告げるところがあった。行基はこの奇跡に感じ、山を拓いて精舎を営み、観音尊像を移し祀り、白山権現を嶺頂に、山王権現を岳麓に祀り当寺を開創したと伝えている。天平十年(七三八)には勅して大伽藍と別院四十二坊を建立し、仁平元年(一一五二)には鳥羽上皇は御願

寺となされた。建久五年(一一九四)には源頼朝は幕府の祈願所となし、同八年(一一九七)には頼朝の命により平家亡霊供養塔但馬国分三百基の開眼供養をした。弘安八年(一二八五)の但馬国太田文によれば、この時の根本中堂領進美寺は三十二町五反を領していた。暦応二年(一三三九)足利尊氏の部将阿曾沼孫四郎に攻められ寺領をその兵糧にあてられた。至徳元年(一三八四)温泉寺清禪和尚が但馬国三十三所観音を定め、その一番とされた。明徳三年(一三九二)住侶幸円が大鯿口を寄進、応永十年(一四〇三)住侶妙円が大梵鐘を寄進した。寛文十年(一六七〇)大梵鐘を造り、貞享三年(一六八六)観音堂を再営し、元禄十三年(一七〇〇)観音堂宮殿を造った。寛延四年(一七五二)仁王門を建立し、宝暦四年(一七五四)赤崎道道標を建て、寛政二年(一七九〇)日置坂道標を建て、同十一年(一七九九)浅間坂道標を建立した。享和二年(一八〇二)本堂建立、文政十年(一八二七)仙石久利大檀那として観音堂を再建し、天保二年(一八三一)仁王門を再建した。明治二十一年山内三十三所観音を建立した。

檀家数 七〇戸
其他

鎌倉時代古文書 二五点(町指定文化財資料編登載)

鯿口 明徳三年(一三九二)作(兵庫県指定文化財)
梵鐘残欠 応永十年(一四〇三)作
文字瓦残欠 文安五年(一四四八)作
白山神社社殿

14 普門寺 日高町久田谷七九〇

曹洞宗
本尊 釈迦牟尼仏

縁起その他

開創年月不詳

15 高峰山 善福寺 日高町夏栗五三九

宗派 高野山真言宗

本尊 金剛界大日如来

開基年月日 不詳

縁起と寺歴

曾って(は)現在地の東北(字寺住)に堂宇が建立されていた。当時は仁王門を構えた結構壯麗な伽藍であったが火災により焼失したといわれている。記録によれば、宝暦年間再中興広舜上人(第四世)が現在地に伽藍を建立している。寺は当町大岡寺の末寺で、歴代住職中に大岡寺住職及びその子弟の名が多くみられ、また大乘寺住職が

五、日高町所在寺院一覧

移住し当寺の住職となっている。

檀家数 四三戸

其他

金剛界大日如来(本尊)

聖観音菩薩 等身像

菩薩像 一寸八分 金銅掛仏(昭和二十年七月字大月より出土)

宝篋印塔 応永九壬午(一四〇二)の建立銘が刻まれている。

当山鎮守秋葉大権現を裏山に祀っている。また、明治三年太政官布告があったまで白山権現(高負の社号が兩部神道により白山神社と改められていた)の別当寺となっていた外村内の神社の祭祀も併せ執り行っていた。

16 護国山 国分寺 日高町国分寺七三四

宗派 浄土宗

本尊 薬師如来

開基年月日 天平九年(七三七)

縁起と寺歴

天平九年(七三七)、聖武天皇は護国安穩のため行基菩薩に薬師如来を彫刻させ、永代勅願所とされた。天平十三年(七四一)の詔によって国分寺が建立されることに

なった。天平勝宝八年(七五六)には、灌頂幡、道場幡などが頒布された。宝龜八年(七七七)には国分寺の塔に落雷があった記録もある。当時は塔・南大門・中門・

金堂・回廊・講堂などの伽藍が立並び華麗を極めていた。貞觀四年(八六二)には一丈五尺の幡十八旒が施入され、延喜式には二万束の護寺費が充てられていた。鎌倉時代の『但馬太田文』によれば、寺用田十町歩余、定田

二十三町歩余の寺領を有し、建武五年(一三三八)には、光厳上皇の院宣が残されている。天正年間、豊臣秀吉の但馬平定に際して、兵火のために焼失したと伝えられている。承応三年(一六五四)蓮生寺末として再建され、宝曆九年(一七五九)本尊薬師如来が京都仏師より

送り戻された。

檀家数 八戸

其他

薬師如来坐像(本尊) 藤原時代作。(町指定文化財)

日光・月光兩脇土像、阿弥仏坐像、頻須留尊像、国分寺

跡出土瓦。

17 天台山 法華寺 日高町山本二六八

宗派 曹洞宗

本尊 千手観世音菩薩 薬師瑠璃光如来

開基年月日 天平勝宝五年（七五三）

縁起と寺歴

天平勝宝五年（七五三）聖武天皇御后光明皇后の御志願により、薬師瑠璃光如来を本尊とする法華滅罪の寺（法華寺）として、水上字法華寺に、七堂伽藍整備せる巨刹として建立された。国分寺が僧寺であるのに対し尼寺であった。この地を今に至るも尼堂と称し、当寺の礎石一つを残している。なお、この地に法華寺の守護神として鎮祭した堂宇を尼ヶ森神社と称した。明治三十年山本字堂奥へ移転し、天珂森神社と称した。法華寺は天正年間豊臣秀吉の兵乱に際し灰燼となったが、本尊は焼失をまぬがれ残存している。

元禄二年（一六八九）山本字堂奥に小堂を建立し法華寺本尊をここに移し、新たに干手観世音菩薩を本尊として祭る。宝暦七年（一七五七）小出氏を大檀那として本堂を新築した。昭和五十一年本堂瓦屋根を銅板屋根に葺替えた。

其他

干手観世音菩薩木像、薬師瑠璃光如来木像、毘沙門天金銅仏、大太鼓（小出氏奉納）、国分尼寺跡礎石。

18

四明山 妙光寺

日高町鶴岡八〇

宗派 日蓮宗

本尊 釈迦牟尼仏

開基年月日 享保九年（一七二四）

縁起と寺歴

享保九年（一七二四）河本太郎右衛門菟願に依り江原立光寺第九世一音院日輝上人開基として四明庵と称し建立した。本堂に三宝釈迦如来、多宝如来、四大菩薩、日蓮聖人の仏像を奉祀し、国家安泰を祈り、各家の家内安全、現世安穩を祈念し、各家の御先祖物菩提を供養し所願成就を祈禱する妙見大菩薩、鬼子母神諸天善神を拜し奉り勧請した。天明四年（一七八四）本堂を再建し、四明山妙光寺を称した。立光寺末寺としていたが明治十七年一月日蓮宗京都本山立本寺直属の末寺となる。

大正三年本堂改築再建葺葺を瓦葺とした。昭和六年鐘楼堂及び梵鐘を新に建立し昭和四十九年四月本堂大修繕を行う。

昭和五十六年宗祖七百遠忌にあたり、本堂・仏殿・仏具を新調荘厳し、内外共に寺観を一新した。

其他

妙見堂……能勢妙見山より勧請を受け天保十五年別棟を建立嘉永七年（一八五四）秋再建明治二十一年改築昭和四十四年屋根葺替

五、日高町所在寺院一覧

最上位経王大菩薩清正公大神祇……明治十四年高松、稲荷山より勧請、妙見堂内に安置す。

19 光喜山 極楽寺 日高町鶴岡六四一

宗派 浄土真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

開基年月日 文政四年（一八二二）

縁起と寺歴

文政四年（一八二二）十月十五日開基。開基前は古くより道場（説教所）として開かれていたと伝えられる。開基当時の寺歴は記録が残されていないので不詳。

檀家数 一五〇戸

其他

宝物 六字名号（真筆）

親鸞聖人伝絵 七高僧御影

聖徳太子御影

宗祖 見真大師親鸞上人御影

20 日高山 三昧院 日高町日置七四

宗派 浄土宗西山禅林寺派

本尊 願阿弥陀如来

開基年月日 明治二十七年

縁起と寺歴

当山は円山川の辺にあり、明治中期このあたりには狐が出て旅人をだますことしばしば、また川のほとりは身投げ自殺の名所であったともいわれ、死霊浮ばれず一種の魔の立て限といわれていた。当山開基徳空秀本上人たままこの地を通過せし折、迷霊あまた上人を引き止めた。上人深く憐みて経を誦されると亡霊は退散したが、上人はこの地に一字を建て、円山川で死んだ人々の菩提とこの地に念仏の衆生を撰取せしめようとの悲願で開基された。

檀家数 八〇戸

其他

みかえり阿弥陀如来 永観律師作

千体仏 葉師如来 善光寺阿弥陀如来

当山願阿弥陀如来秘仏とされ、三十三年に一度御開帳される。

21 龍王山 長寿寺 日高町篠垣一一〇ノ一

宗派 曹洞宗

本尊 聖観世音菩薩

開基年月日 元禄二年（一六八九）

縁起と寺歴

元禄二年（一六八九）宗本首座開基。縁起等不詳。開山は北溟天峰大和尚である。
檀家数 無
其他

22 碧雲山 常光寺 日高町佐田八四五

宗派 曹洞宗

本尊 觀世音菩薩

開基年月日 慶安三年（一六五〇）

縁起と寺歴

当寺は昔大洪水により古記録を流失し、縁起等不詳であるが、後世の記録によれば、寛永年間金山に建立され、その後佐田字寺山に移転した。慶安三年（一六五〇）字向川原に宗珉和尚が寺門を建立し、養源寺祖道和尚が開山した。正徳二年（一七一二）智海和尚により本堂を建立した。明和四年（一七六七）大洪水にあい本堂を大破したが修理復興した。明治二十六年豪雨洪水により全建物を流失、明治二十八年現在地に移転新築した。昭和五十二年庫裡火災に罹り同五十三年これを新築した。

檀家数 二一四戸

其他

茶釜 室町末期作 楽前城跡より出土

23 九品山宝寿院 蓮台寺 日高町知見一〇〇三
宗派 高野山真言宗
本尊 大日如来
開基年月日 天平十七年（七四五）
縁起と寺歴

天平十七年（七四五）行基菩薩が但馬路御飛錫の砌り、知見珍坂山に宝寿院を開創されたと伝えられている。その後、明禅寺・玄養院・正智院・宝光院を建立され隆盛となったが、それぞれ山を下り、宝寿院は知見字蓮台寺へ、明禅寺は森山に、玄養院は阿瀬谷に、正智院は佐田へ、宝光院は久斗に各々坊舎を建立したという。宝寿院は承応二年（一六五三）知見字宮ノ谷に移転改築し、弥陀八幡菩薩を勧請した。その後火災に遇い一切を焼失した。旧記によれば現在の庫裡は承応二年中興観与上人の再建にして、西方楽土九品寺と号し農家の中（現消防機具置場屋敷）にあったのを、修禅の妨を難き明和六年（一七六九）中興九世宥活法印現在の地に移転し、旧田鶴野村金剛寺より弘法大師御作と伝う大日如来を請来し、本尊となし、此時寺号を九品山蓮台寺と改称する。寛政五年（一七九三）堂宇を建立、文化八年（一八一二）に土蔵並びに納屋の建築、文化十年（一八一三）鐘楼堂を再建しここに寺院面目を一新した。

五、日高町所在寺院一覧

檀家数 六〇戸

其他

本尊大日如来像弘法大師作と伝う。

大正四年高野山開創一千百年記念として、東山に八十八ヶ所靈場を開いた。昭和三十年当山南の山に移祭した。

24 法華山 明禪寺 日高町森山九二

宗派 曹洞宗

本尊 聖観世音菩薩

開基年月日 永享年間（一四二九—一四四一）

縁起と寺歴

明禪寺は元は真言宗で、応永年間（一三九四—一四二八）八鹿に越える珍坂峠に開創されたという。永享の頃、楽前城主垣屋隆国の二男垣屋監物が知見に帰農した時、その家臣安田紀伊守が開基復興し、森山赤城に移された。その後無住の時もあったが、臨濟宗となり丹波高源寺末となった。享保十一年（一七二六）当寺の鎮守杉岡神社を改築遷宮式を営む。明和のはじめ火災に罹り、同八年（一七七二）堂宇を再建した。明治初め頃まで寺子屋を開いたが、その後無住となり、明治中期より兼之尼和尚が伽藍を整備し曹洞宗に改宗した。明治末には本堂庫裡を瓦葺にした。昭和五十年本堂その他全般修理と

整備し現在に至る。

檀家数 無 信徒六五

其他

本堂・本尊 聖観世音菩薩像 薬師如来像 不動明王像
秋葉大権現像 但馬西国六番札所

25 志貴山 観音寺 日高町観音寺七四六

宗派 天台宗

本尊 十一面観音大士 大日如来

開基年月日 天平年中（七二九—七四八）

縁起と寺歴

天平年中行基菩薩の草創にかかり、菩薩自作の十一面観音大士を本尊として安置したと伝えられている。長和年中（一〇二二—一〇二六）天台念仏門の祖恵心僧都は、この地に再興坊舎を設けて、金界大日如来一軀を自作、顕密両修の祈願に専念した。天仁元年（一一〇八）滝泉院行長法印は当山に七堂宇を建立し、久安三年（一一四七）大僧都智弘法印は山内九院を興した。この年、近衛天皇の祈願所となり、寺領七百石と十六善神涅槃像の画幅二点を寄進されたという。永正十七年（一五二〇）常喜坊慶覚法印は観音堂に本尊（厨子宮殿・十一面観音大士）を造立した。天正六年（一五七八）豪賢法印は別当坊を

中興し、元和五年（一六一九）快宥法印は観音堂宝楼閣を中興建立した。寛文十二年（一六七二）豪運法印が観音堂宝楼閣を再建し（現時の建造は概ねその遺構である）、明和四年（一七六七）宝篋印塔建立、安永二年（一七七三）寺門興隆期となる。明治初年寺運衰退したが、大正昭和時となり、良航法印観音堂、别当坊・仁王門等大修理をし現在に至る。

檀家数 六五戸

其他

仁王門 鎌倉時代作（兵庫県指定文化財）

鐘楼門 鎌倉時代作推定

十一面観音木像 永正十七年（一五二〇）作

毘沙門天木像 鎌倉以前作

十一面観音靈札 永正十七年（一五二〇）作

観音宮殿 永正十七年（一五二〇）作

十六善神・涅槃像画 久安年中に作る（近衛天皇寄進と伝う）

十二天画像 永禄四年

両界曼荼羅図 明和四年好順尼寄進

26 大乗山 妙福寺 日高町観音寺三九六

宗派 日蓮宗

本尊 釈迦牟尼仏 日蓮尊像
開基年月日 文明五年（一四七三）
縁起と寺歴

文明五年（一四七三）日会上人の開山によるもので、もと羽尻村の支郷金山に在ったが現在地に移したという。
安永四年（一七七五）本堂を建築し、天和二年（一六八二）梵鐘を鑄造した。

檀家数 三一戸

其他

涅槃絵

27 栗棘峰 常楽寺 日高町栗山二九五

宗派 曹洞宗

本尊 釈迦牟尼仏

開基年月日 享保十五年（一七三〇）

縁起と寺歴

常楽寺は、もと栗棘峰通宵庵と号し、享保十五年（一七三〇）千光和尚を開山として、栗山長岡五郎兵衛により建立された。通宵庵は当時その戦帳が困難であったので、二世法雲和尚の時、因縁により、左大臣花山院定好が禅門に帰依して寛永二年（一六二五）仏頂国師の弟子義萃和尚を開山として創建された常楽庵の寺号引移しと

五、日高町所在寺院一覧

再興を願い出て、延享三年（一七四六）正式の護状と共に淳貞院定好公位牌と法像を贈られ、爾来滞断なき供養を続けていると共に、現在も大聖寺花山院慈薫門跡の再三の来訪を受けている由緒ある寺である。

檀家数 無 信徒二五

其他

十六羅漢図絵 兆殿司作と伝う

28 曹峰山 大溪寺 日高町栗山三〇六

宗派 曹洞宗

本尊 釈迦如来

開基年月日 承応三年（一六五四）

縁起と寺歴

承応三年（一六五四）の創建であるが、前任七代を経て伽藍が焼失し、後、葉山宗伽和尚が再建開基した。隆国寺開祖大徳宗椿大和尚を開山として勧請し現在十一代に至っている。本堂は三世豁玄大和尚のとき、位牌堂は五世靈宗大和尚のとき、庫裡は二世宜豁大和尚のときそれぞれ建立された。経藏・宝藏・鐘楼など歴住これを完備した。鎮守金毘羅堂は両部神道時代からのもので、裏山の頂上にあつたものを明治初年に現在地に移転し、昭和

五十年秋再建した。境内外田畑山林二つの谷を一画にして、寺有地は一万坪を超え、高い石垣は城砦の風格を残し、遠く之を望めば中国の曹溪山に似ているという。元は大溪院と称していたが、昭和十六年大溪寺と改称した。

檀家数 一〇〇戸

其他

開山伝統の鉄針 狩野派の法橋元信の画

29 玄養院 日高町栗山字内籠

宗派 真言宗醍醐派

本尊 不動尊

開基年月日 不詳

縁起と寺歴

玄養院はもと金竜山両願寺と称していた。口碑によれば、もと奈良から猪子垣村字堂の前に移し、阿瀬鉦山の盛時にはさらに之を金谷に移したという。古来醍醐寺三宝院の末寺の修験場であった。往時は西三十三ヶ国の嬰婆頭、同二十一ヶ国の末寺を支配する大先達として、毎年七月十八日の大峰入峰には醍醐寺の会符を立て、沿道各村の庄屋をして夫役を以って送迎させる勢いであつたが、中頃寺勢振わず、享保八年（一七二三）伊勢国世義

寺に大峰床及び寺格に關する諸文書を典して債務を起した。安永八年（一七七九）漸く九州のみ取り戻したが、寺勢は益々衰えた。昭和五十一年現在地に堂宇を新築し不動尊像を安置した。

檀家数 無 信徒九〇

其他

不動尊像

30 金砂山 真光寺 日高町殿四四

宗派 浄土真宗本願寺派

本尊 阿弥陀如来

開基年月日 享保元年（一七一六）

縁起と寺歴

寺伝によれば、もとは真言宗の優婆塞であったが、正治義俊（源氏）に至り、蓮如上人の法徳を慕い、撰津名塩村で上人に隨身すること三年、帰って真宗の一寺を開創した。頭如上人石山籠城のときは、四代格俊がこれに従って城中に居たその留守中に寺宇を焼失した。格俊は帰って復興を図ったがその志を果たさず、六代庭岸に至り堂宇を建立し、興正寺門徒福成寺下となった。享保元年（一七一六）真光寺の寺号を公認された。後、本願寺末となる。文化十四年（一八一七）多田利左衛門堂宇を再

建寄進した。

檀家数 三三戸

其他

木像阿弥陀如来 親鸞聖人絵像 教興院絵像 聖徳太子
七高僧絵像 天女の舞構圖

31 布金山長者峰 隆国寺 日高町荒川二二

宗派 曹洞宗

本尊 釈迦牟尼仏

開基年月日 不詳

縁起と寺歴

布金山隆国禅寺開闢見聞記によれば、樂々前城主播磨守隆国が開基したという。開基年月は不詳であるが室町時代であろう。その後、羽尻村の金山寺谷の地に移した。当時この金山は砂金の採掘が盛んであったことから、この寺を布金山長者峰隆国寺に改めたという。更に垣屋光成が鶴ヶ峰城主の頃、阿瀬の地に大光院を建立したが、元和九年（一六二三）大光院大徳宗椿和尚が現在地荒川字金野に隆国寺と併せ移した。其の後、火災に罹り一山悉く焼失したが、寛政四年（一七九二）本堂を造営し、同六年禅堂を建て、享和二年（一八〇二）山門、同三年惣廻、文化三年（一八〇六）惣門を建て、此の間

五、日高町所在寺院一覧

石垣を改修した。天保三年（一八三三）より後庭に牡丹を植えた。明治四十三年梵鐘を铸造した。

檀家数 五〇〇戸

其他

悦岩字号の書 天正四年（一五七六）策彦周良書

岸徳・岸岱の襖絵 弘化三年（一八四六）（町指定文化財）

山門 石垣（部分町指定文化財） 梵鐘

庭園の牡丹は有名で一名牡丹寺ともいわれている。

32 地藏寺 日高町野一〇一四

宗派 曹洞宗

本尊 釈迦牟尼仏

縁起その他

正徳年間隆国寺三世仏広卓道大和尚開山文化五年焼失、

文化六年再建

地藏尊及庚申尊を併せ祀る

33 金生山西方院 浄土寺 日高町芝六一

宗派 浄土宗

本尊 阿弥陀如来

開基年月日 慶長二年（一五九七）

縁起と寺歴

慶長二年（一五九七）天蓮社泰誉光道上人の開山により三方村羽尻金山に創建された。承応三年（一六五四）中興

第四世覚蓮社体誉上人のとき、芝村田路助右衛門の寄進

により三所村に移転建立された。元禄十四年（一七〇一）

第七世明蓮社宗誉上人のとき現在の芝村に移転建立された。

村記録によれば、芝村蘆荒地を開発して寺地をつくり

建立したとある。宝暦年間（一七五一—一七六三）浄

室尼が数年にわたり托鉢して三十三所観世音を勧請した。

その仏像は一人が一体ずつ背負って京都から運んだ

と伝えている。明治二十一年梵鐘铸造、昭和十三年本堂

改築、昭和四十四年庫裡を改築した。

檀家数 一四八戸

其他

34 久持山 比曾寺 日高町頃垣五五四

宗派 高野山真言宗

本尊 聖観世音菩薩

開基年月日 天平四年（七三二）

縁起と寺歴

天平四年（七三二）太多庄生れの賢者仙人（上人）が比

曾山上に一寺を創建したと伝えている。その後、養父郡

生れの延朗上人が中興開山している。『元享釈書』によれ

ば、延朗上人は源義家の四世の孫に当り、幼少のとき当山に入り、十五歳にして出家し、十八歳のとき比曾寺に帰りこれを中興した。平治の乱（一一五九）には、平清盛に攻められたが、上人は一心に法華経を誦誦し窮地を脱することができた。その後、諸国の靈山を巡歴し、安元二年（一一七六）洛西松尾社南の最福寺に移った。その当時の比曾寺の広大な寺域・大門・御中門・山門跡などが残っている。

延定阿闍梨（年代不詳）のとき寺を現在地に移した。明治四年火災にあい本堂を残して焼失し、明治八年庫裡を新築、同二十年庭園を造る。大正元年新四国八十八所霊場を開山、昭和三十一年本堂庫裡屋根替。

檀家数 七五戸

其他

経筒 聖観世音菩薩像 両界曼陀羅絵

35

瑠璃山 大岡寺

日高町山宮六七二

（一部日高町大岡に残る）

宗派 高野山真言宗

本尊 薬師如来

開基年月日 天平宝字元年（七五七）

縁起と寺歴

天平宝字元年、太多郷の人賢者仙人が開創したと伝う。

賢者仙人が大岡山に一字を建立しようとした時、天地たちまち暗黒と化し雷鳴とどろく中、東天に日輪が現われその中に二神を見た。仙人加持の法力により童女は大岡明神、童男は白山大権現の姿を現わされ、これより大岡明神を地主神、白山大権現を客神として祭祀したという。往時は多聞院・安楽寺・安子院・地藏院・船若院・弥勒院・北ノ坊・東禅寺・極楽寺・成就院・平楽寺・西ノ坊の十二坊の別院があった。明応四年（一四九五）北ノ坊より出火し本堂・護摩堂・庫裡等を焼失し、明応六年（一四九七）本堂を再建し現本尊を作る。現庭園も此の頃造られたようである。天和三年（一六八三）本堂再建、享保六年（一七二二）仁王門建立、昭和三十三年本堂屋根葺替をする。昭和四十二年大岡部落集団移転のため、一部残して山宮へ下山移転した。昭和五十七年仁王門を移転した。

檀家数 八五戸

其他

奥ノ院庭園（県指定文化財）

本尊薬師如来・日天・月天 明応六年（一四九七）作

十二神将 嘉永年間作

仁王像 法橋一運作

五、日高町所在寺院一覧

中世古文書 三十点(資料編登載)

其他

36 久遠山 大円寺 日高町神鍋五七三

宗派 臨済宗南禅寺派別格地

本尊 釈迦如来

開基年月日 慶長年間(一五九六—一六一四)

縁起と寺歴

慶長年間(推定慶長十一年頃)南禅寺第二六九世住持悦叔宗最禅師により開闢された。そのころ塚本(栗栖野)の慶雲庵と山宮の福田庵を合寺して新寺建立を画していた福田庵住職雲山宗清禅師(大円寺第二世)は悦叔禅師の但馬円通寺入りを聞き、悦叔を請じて新寺開山の第一世に迎え、久遠山大円寺と号した。その後、伽藍規矩を完成したが、火災に遭い焼失し、寛文九年(一六六九)夏堂宇を再建した。再び火災に遭い焼失し、宝暦十一年(一七六一)より再建に着手し厨庫・宝藏・方丈・楼門・隠寮・鎮守堂等を天明四年(一七八四)に至って再建した。文政五年(一八二二)鐘楼再建明治四十二年庫裡移築、大正七年山門鐘楼銅板葺、昭和二十年隠寮移築、同三十年方丈屋修理、同四十九年禅堂兼鎮守堂を復興した。

檀家数 三三三戸

悦叔語録 慶長八年(一六〇三)―元和七年(一六二二)

(町指定文化財)

十六善神 木下応受作

布袋と狐の画 白隠禅師作

竹と虎の画 円山応挙作

大鐘 大正十五年 香取秀真作(町指定文化財)

山門彫刻 安永七年(一七七八)(町指定文化財)

沢庵禅師書 儀山禅師書 独園禅師書

屏風半双(雲谷等揚筆) 屏風半双(燕村筆)

境内に宝篋印塔(町指定文化財)がある。

町内宗教団体一覽 ()は開所年・所在地

天理教 中但分教会 (大正2 浅倉)

江原分教会 (大正9 国分寺)

但日分教会 (昭和3 久田谷)

江中分教会 (昭和10 中)

日隆分教会 (昭和13 日置)

華清分教会 (昭27 頃垣)

神鍋山分教会 (昭和14 神鍋)

城崎分教会 (昭和32 栃本)

峯美分教会 (明治47 上石)

西気分教会 (大正14 野)

蓼川分教会 (昭和37 鶴岡)

金光教 気多教会 (明治22 江原)

清滝教会 (明治42 十戸)

出雲大社教 日高教会所 (昭和27 宵田)

黒住教 水口教会所 (昭和27 水口)

大本教 日高支部 (昭和20 久斗)

国府支部 (昭和23 府市場)

神鍋支部 (昭和28 神鍋)

鶴岡支部 (昭和30 鶴岡)

創価学会 日高班 (昭和35 池上)

霊友会 個人信者のみ支部なし

キリスト教 但馬日高伝道所 (昭和34 岩中)

カトリック 江原伝道所 (昭和27 江原)

三五教 兵庫支部 (昭和40 上郷)

世界救世教 江原支部 (昭和32 江原)

生長の家 相愛会日高支部 (昭和47 土居)

註

日高町所在寺院一覽は昭和二十六年四月宗教法人法の発布にともない、新法人が設立されているので、これによって調査したものの一部を掲載した。寺歴、歴代住職、建造物、寺宝、その他詳述出来なかつた点は後日の発表にまつこととする。

六、年 表

縄 文 時 代				先土器 時 代	西 歴	時代・年号	記 事
中 期	前 期	早 期	草 創 期				
<p>関東中部地方で主体的な文様の土器がつけられる。 ○日高町では未発掘</p>	<p>平底の土器が一般化し、木工技術が発達、漆の使用が始まる。 ○姫谷遺跡(野)</p>	<p>犬を使う狩猟が始まる。 ○神鍋・水上・前田(頃垣)各遺跡</p>	<p>土器の使用が始まる(尖底・丸底の深鉢形土器)。弓矢の使用が始まる。漁撈活動が活発化し、貝塚を形成。 ○神鍋・山宮・伊府各遺跡(関宮町杉ヶ沢・大屋町上山高原)</p>	<p>土器を使用し始める以前の時代。主として採集狩猟の食生活である。遺物としては石器。 ○伊府遺跡(但東町西ヶ奥・養父町石ヶ崎)</p>	前 一 万 年 頃		
					前 七 〇 〇 〇		
					前 四 五 〇 〇		
					前 三 〇 〇 〇		